

SUN ななぐと。

僕たちがつなぐのは
伝統でつながれた三輪への思い



三輪青年団 三輪神社秋祭り
太鼓乗り子指導者

油谷 佳明 さん
Yoshiaki Yutani 三輪



ラジオ・ハニー-FMでもっと詳しく聴けます!【9/21 15時10分〜】

「トリーマセー」—— 威勢の良い掛け声で始まる地域の伝統文化・三輪神社秋祭りの奉賛行事「だんじり」。三輪区では、10歳を迎えた子どもたちが「乗り子」となり、だんじりに乗って太鼓をたたく。「今年は大鼓やな」楽しみで仕方なかったと当時を振り返るのは、乗り子に太鼓を教える油谷佳明さん。五穀豊穡に感謝するこの祭りは、約1カ月前から準備を開始、当日は総勢百人以上がだんじりを担いで練り歩く盛大な祭りだ。中学生から38歳までで構成される三輪青年団が中心となって動かす。「後継者の育成」それが祭りにおける青年団の大きな役割だと話す。油谷さんが教える「太鼓」は、そのリズムでだんじりの動きが変わるなど、重要な役割を担う。その上、子どもたちにとって一生に一度の機会。指導にも力が入る。「とにかく楽しむ!失敗しても責任はとるから、やりたいようにやれ」いつも後押ししてくれる先輩の言葉を胸に、油谷さんも楽しむことの大切さを伝える。かつては父から太鼓を教わった自分が、今度は子どもたちへ。引き継がれる役割と期待に「使命感」を確かにする。祭りは、準備も毎年の参加も、決して簡単ではない。それでも「三輪が好き。この思いが僕たちの原動力です」と笑う。楽ではない行事も多い中、地域に喜んでほしい



三輪神社秋祭り
太鼓指揮者/油谷さんの先輩、**森 茂** さん

と毎年多くの団員が集まる。若者が減り、一度は途絶えた青年団も再結成から25年。思いを分かちながら、変わることもなくみんなが人と地域を結んできた。「ここを離れたくない」地元を構えるほど三輪を思うのは、地域に育てられたからだと言います。通りを歩けば名前を呼ばれ、祭りの後は店に寄り合う。子どもの頃にもらった深い愛情は、今も変わらずここに息づく。「自分の子どもも同じで」と話す顔は本当に幸せそう。油谷さんはPTA活動などにも奔走する。「僕の思いは全て子どもたちにつながります」その言葉の先に見えるものは——。地域文化は「伝統」という形式だけでは決して引き継がれない。三輪の文化をつなぐもの。それは伝統でつながれた地域の愛情に他ならない。

私も三輪の行事に関わり指導する立場になってからは、みんなに心から楽しんでほしいと、名前でもたちらに接してきました。これ無くして文化は引き継がれません。佳明くんは此るときも褒めるときも本気。安心して任せられますね。

「やん!」その思いから「楽しみ方改革」の合言葉が誕生しました。当たり前じゃなく、楽しみを

取り組んだ改革の一つが「校則」について。校則はそもそも、私たちが楽しく快適に過ごせるためにあるはず。今、自分たちがしたいことと校則を照らし合わせて、もっと楽しく過ごしやすい学校にするために、改めて考えました。ただ、校則を変えて学校生活が乱れてしまつては本末転倒。何かを自由にする代わりに、起こりそうな問題を点を想像して、守るべきルールについても自分たちで考えました。例えば、夏の授業中の冷房。席によっては風が強くなるため、「寒くて授業に集中できない」との声がありました。そこで、カーディガンの着用を許可してもらおう代わりに、授業時間以外には羽織らないとルールを設けました。同じように、汗拭きシートの使用についても要望があり、無香料のものに限る・使用後のごみは必ず持ち帰ることを決め、使えるようになりました。

今ある当たり前にとらわれず、みんなで意見を出し合い、自分たちが楽しく過ごせる学校を創っていく。ゆりのき台中学校の「楽しみ方改革」はこれからも続きます。



今だからこそ「楽しみ方改革」を



ゆりのき台中学校

- 1~3 生徒会執行部と専門委員長の皆さん(3年生)。毎週水曜日の定例会で、提案と議論を重ねる。
- 4 生徒会長の川上さん。全校生徒で集まらない今、校内放送を活用してみんなに明るい話題を届けている。
- 5 改革の一つ、「汗拭きシートの使用」。体育の後でも汗でべたべたしないので、授業の集中度もアップ!
- 6 こちらも改革の一つ、「カーディガンの着用」。みんなが快適に過ごせるようになりました。

楽しみ方を変えたらいい

昨年からさまざまな学校行事が中止になり、みんなで集まる機会も減ってしまいました。そんな中、生徒会で何ができるか——「コロナ禍だから何もできないとあきらめるのではなく、せめて楽しもう!楽しみ方を変えたらいい

私たちがいつも大事にしているのは、「楽しむ時は楽しんで、真面目にやる時は真面目にやる」ということ。人数の多いこの学校でみんなが快適に過ごせるためには、一人一人がその場に正しい判断をして行動することが大切です。1年生の時から先輩の姿を見て自然とその姿勢が身に付いていき、それが校風として根付いています。だから、生徒同士や生徒と先生の間に関係が生まれ、色々な場面で意見を言いがやすい雰囲気があることが自慢です!

メリハリで生まれる信頼関係

平成4年に開校したゆりのき台中学校。市内8中学校のうち一番新しく、670人と現在最も生徒数が多い。生徒はあかしあ台・学園・ゆりのき台小学校区から通う。今年度、「楽しみ方改革」をスローガンに、活動に取り組む生徒の皆さんに自慢を聞いた。